

Ⅲ 社会の問題と 調査結果・分析等

分析ページの構成と見方について

1 「設問のねらいと評価」について

- ◎ 「大問・内容」には3・4年生で学習する「身近な地域や市」「生産や販売」「飲料水」「事故の防止」「地域の人々の生活」「県の様子」の6つの内容を、「設問のねらい」には小問ごとの設問のねらいを、「評価」の項目には「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4観点に該当するものを○印で示した。

2 「調査結果の概要と分析」について

- ◎ 調査結果の分析については、「全体（教科全般）」「内容別（領域や内容別）」「課題」を示した。（文末の「○ページ参照」は、次の3「内容別調査結果の指導のポイント」との関連箇所を示している。）

（◇：良好な結果が見られた点 ◆：課題が見られた点 ○：指導のポイント）

3 「内容別調査結果の指導のポイント」について

- ◎ 大問・内容ごとの設問・正答・誤答例・結果等を左ページに、その考察（分析・指導のポイント）について右ページ以降に記した。

※ 分析等では、小数第2位を四捨五入した調査結果を用いている。

（※誤答例は、抽出児童の主な誤答について頻度の高いもの）

1 設問のねらいと評価

評価の観点： 1・・・関心・意欲・態度 2・・・思考・判断・表現 3・・・技能 4・・・知識・理解

内容	大問	小問	設問のねらい	評価の観点			
				1	2	3	4
身近な地域や市	1	(1)	地図記号を理解している。				○
		(2)	地図上の土地の様子を読み取ることができる。			○	
		(3)	発見カードに書かれている場所を、地図から見つけることができる。			○	
		(4)	地図記号を考え、その理由を書き表すことができる。	○	○		
生産や販売	2	(1)	産地マップから分かることを読み取ることができる。			○	
		(2)	インタビューの内容を考えることができる。		○		
		(3)	買い物をしやすくする工夫について理解している。		○		○
飲料水	3	(1)	二つのグラフを比べて読み取ることができる。		○	○	
		(2)	飲料水が届くまでの道筋を読み取ることができる。			○	
		(3)	浄水場のはたらきについて読み取ることができる。			○	
事故の防止	4	(1)	事故が起きた時の連絡の仕組みを読み取ることができる。			○	○
		(2)	安全な暮らしを守るための努力について理解している。				○
		(3)	安全な暮らしを守るために、自分たちにできることを判断することができる。		○		
地域の人々の生活	5	(1)	昔の道具について理解している。				○
		(2)	道具の変化について理解している。				○
	6	(1)	二つの資料をもとに読み取ることができる。		○	○	
県の様子	7	(1)	書かれている内容について、資料を選択することができる。		○		
		(2)	二つの地図を組み合わせて考えることができる。		○	○	
	8	(1)	地図帳を活用することができる。	○		○	
		(2)	地図帳を活用し、埼玉県の地理的な位置やまわりの様子などを読み取ることができる。	○		○	

2 調査結果の概要と分析

全体	◇全体的に高い正答率であり、3・4学年で学習した内容についておおむね理解できており、満足できる状況にある。 ◇全体的に無解答率が低く、出題された問題に対して、意欲的に取り組もうとする様子がうかがえる。 ◆一つの資料から読み取ることはできるが、二つの資料を関連付けて読み取る問題の正答率が低い。
内容別	身近な地域や市 ◇方位記号の意味や、発見カードに書かれた場所を地図上から読み取る問題の正答率は高く、地図記号の理解や地図の活用について学習の成果が表れている。 ◆公園の記号を考え、なぜその記号にしたかの理由について記述する問題の正答率は低く、無解答率は高かった。思考し判断したことを表現する力に課題が見られる。 ○地図を活用した学習活動において、地図記号で表すことのよさや、なぜそのような記号になったのかを考え、発表するなどの指導が必要である。
	生産や販売 ◇野菜や果物の流通、消費者へのインタビュー内容を考える問題の正答率は高く、産地調べやスーパーマーケット見学の学習などの成果が表れている。 ◆販売のための工夫と環境保護についての努力についての判別ができていない様子が見られた。 ○お店見学の学習において話し合い活動を充実させ、お店の工夫と一括りにするのではなく、消費者や働く人、環境のための工夫など分けてとらえさせる指導が必要である。
	飲料水 ◇飲料水が届くまでの道筋や浄水場のはたらきについて、資料をもとにおおむね読み取れている。 ◆二つの棒グラフから読み取る問題について課題が見られた。 ○グラフなど基礎的資料の読み取りについて繰り返し指導するとともに、複数の資料を比較したり関連付けたりして思考、判断させる指導の工夫が求められる。
	事故の防止 ◇安全なくらしを守るための地域の人々の努力や自分たちのできることにについておおむね理解できており、地域を生かした学習の成果が表れている。 ◆事故が起きた時の連絡の仕組みについて、連絡（110番）はすぐに警察署につながると判断している傾向が見られた。 ○事故が起きた時の連絡の仕組みについて、火事が起きた時の仕組みと比べたり、実際の場面を想定した学習活動を行ったりするなどの工夫が求められる。
	地域の人々の生活 ◇昔の道具や、道具の変化についておおむね理解できており、博物館での見学や体験、道具の変化を表にまとめるなどの学習の成果が表れている。 ◆資料について話している子どもの言葉から、二つの資料を確認しなければ正答が求められない問題の読み取りに課題が見られた。 ○複数の資料を比較・関連付けしたり、総合して判断させ、根拠や解釈を示しながら発表させるなどの指導の工夫が求められる。
	県の様子 ◇書かれている内容について資料を選択する問題の正答率は高く、埼玉県の特徴についての指導の成果が表れている。 ◆埼玉県から離れている県の位置について、地図帳の活用に課題が見られた。 ○地図帳の積極的な活用を図り、社会的事象の意味について考える力や、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようになる必要がある。
課題	◆小学校社会科は、本年度が初めての実施であり経年の比較はできないが、思考・判断したことの表現（報告書P.23「身近な地域や市」参照）、複数のグラフや資料を比較、関連付け、総合する指導（報告書P.27「飲料水」、P.31「地域の人々の生活」参照）、地図帳の活用（報告書P.37「県の様子（地図帳の活用）」参照）について、今後も意識して取り組む必要がある。

3 内容別調査結果の指導のポイント

(1) 身近な地域や市

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
		たつやさんの学級では、学校のまわりをたんけんして発見したものを地図にまとめました。地図を見て、あとの問いに答えましょう。						
	(1)	⑤の記号は、何を表していますか？ 次の1～4の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きましょう。  1 高さ 2 きより 3 方位 4 広さ	3	1		93.9	0.5	85
1	(2)	この地図からどのようなことが分かりますか。次の1～4の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きましょう。 1 市役所の北には、田や畑が広がっている。 2 市役所のとなりには、郵便局と工場がある。 3 市役所に西には、鉄道が通り、駅がある。 4 市役所のまわりには、家が集まっている。	4	2		81.2	0.7	70
	(3)	たつやさんは、次のような発見カードを書きました。地図のどのあたりをたんけんしたときのものですか。①～④の中から一つ選び、その番号を書きましょう。	1	2		96.0	0.9	85
	(4)	あなたが近所にある公園の地図記号をつくるとしたら、どんな地図記号にしますか。公園にあるものを思い出して、だれにでも分かりやすい記号と、その記号にした理由を書きましょう。	下記参照			63.6	4.1	60

(単位：%)

正答例	誤答例
 公園では、すべり台があって、たくさんの友達もすべり台で遊ぶから。	 公園の「公」が地図記号に似ているから。

身近な地域や市

問題 大問1 (2) (4) 前頁参照

分析 (2)は、地図上の土地の様子を読み取る問題であり、正答率は81.2%であった。誤答は、4「市役所のとなりには、郵便局と工場がある。」が多かった。地図を見て、何がどこにあるかをいうことを読み取る力に個人差が見られる。

(4)の問題は正答率が63.6%であった。無解答率は4.1%であり、今回の小学校社会科の調査で最も高かった。思考し、判断したことを表現することや、表現したことに対して意味付けすることに課題が見られる。

指導のポイント

1 表現する力を高めるため、考えた地図記号を説明させる

班ごとに絵地図を作成する際、自分の考えた絵や記号を説明し合う活動を行う。そのことにより、思考力・判断力・表現力の育成を図るとともに、地図記号のよさと必要性に気付かせる。

○絵地図にかく絵や記号を考える

- ・まちたんけんで見えたものを発見カードにかき、絵地図に使う絵や記号を考える。
- ・自分の考えた絵や記号について、なぜこのようにかいたのか班の人に分かるように説明する。
- ・班の中で、使う絵や記号について話し合って決め、絵地図を作成する。

○班ごとの絵地図を見比べる

- ・班ごとに、作成した絵地図を発表する。その際、なぜこのような絵や記号にしたか、聞いている人に分かるように発表する。
- ・班ごとの絵地図を見比べて、誰でも分かりやすい絵や記号が使われているか話し合い、より分かりやすい記号として、地図記号があることを知る。

2 段階をおった方位の指導を行い、定着させる



地図指導の始めは、実感をもって方位をとらえさせることが大切である。指導に当たっては基準となる四方位を取り上げた上で、地理的位置を学習するようにする。「上下左右」で表現する児童にはその都度言い直しさせるなど、継続した指導を行う。

4年生以上は、「八方位では、南北を先、東西が後（東北ではなく北東）」という原則も指導する。「行き先案内（左図参照）」などを行うことも、方位を定着させる一つといえる。

<方位の指導例>

- ・教室に方位を掲示し、この教室の「窓は南向き」等、身近なものと結び付けたり、「西向け西」などの方位体操を取り入れたりすることにより、方位を常に意識させる。
- ・方位カードを作成し、地図上の自分の立ち位置に置く。
- ・指定位置から目的地まで、方位と目印となる建物などを用いた行き先案内などを行う。

(2) 生産や販売

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
2	こうたさんたちは、スーパーマーケットについて調べました。							
	(1)	こうたさんたちは、野菜や果物のふくろに書かれていた産地をもとに産地マップを作りました。産地マップからどのようなことが分かりますか。下の1～4の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きましょう。 1 野菜や果物は、すべて日本国内から送られてきている。 2 野菜や果物は、埼玉県外からだけ送られてきている。 3 野菜や果物は、埼玉県をはじめ日本全国や外国からも送られてきている。 4 野菜や果物は、すべて外国から送られてきている。	3	1		93.1	0.3	80
	(2)	こうたさんたちが、スーパーマーケットに来ていたお客さんにインタビューしたら、次のような答えがかえってきました。こうたさんたちは、どのような質問をしたのでしょうか。下の1～4の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きましょう。 1 「このスーパーマーケットで買い物をして、困ったことはありましたか。」 2 「このスーパーマーケットに、だれと買い物に来ましたか。」 3 「このスーパーマーケットには、どのような方法で買い物に来ましたか。」 4 「このスーパーマーケットで買い物をした理由は何ですか。」	4	1		91.5	0.3	75
	(3)	スーパーマーケットでは、お客さんが買い物しやすくするために、いろいろなくふうをしていました。次の1～4の中から買い物をしやすくするためのくふうではないものを一つ選び、その番号を書きましょう。 1 商品を種類ごとにきれいに並べています。 2 ペットボトルや食品トレーのリサイクルボックスを置いています。 3 品物のある場所を分かりやすくしています。 4 魚や肉を切り分けて、パックづめしています。	2	4		73.8	0.3	70

(単位：％)

問題 大問 2 (3) 前頁参照

分析 (3)は、販売する仕事に携わっている人々が行っている努力や工夫の中で、消費者のための取組を正しく理解しているかを問う問題である。正答率は73.8%であった。販売する仕事に携わっている人々が行っている工夫の意味について、正しく理解されていないことが課題である。見学後の話し合い活動を充実させ、消費者や働く人、環境のための工夫等に分けてとらえさせる指導が必要である。

指導のポイント

1 「見学の視点」を明確化させる

漠然とした見学にならぬよう、「見学の視点」を明確にする。そのためには、消費者側の願いを整理してから見学を行う必要がある。

(1) 家族への聞き取りと学級での発表・話し合い

家族がよく買い物をするスーパーマーケットについて知っていることを発表する。加えて、家族になぜこのスーパーマーケットを利用するのか聞き取り、それが消費者の願いであることを確かめる。

Q. ふだん行っているスーパーのようすは？

→色々な商品が売ってある。 広い駐車場がある。

◎ 買い物に行く人たちは、たくさんの願いをもっている。

↓

Q. スーパーマーケットを利用する理由は？

→新鮮で、安く、良い物を買いたいから。

→たくさんの商品を一度に見たいから。

お客様の願いに応えるために、どんなことをしているのだろう？

お客様の願い

☆スーパーマーケットを見学して確かめよう！

(2) 見学計画

見学の計画では、前時の話し合い活動をもとにして質問事項を整理させる。加えて、特に注意して見学したいポイント等を整理しておく。自分の予想を立て、その予想を踏まえた質問事項を考えさせてもよい。



駐車場があるスーパーって多いね。これって、買う人の願いをかなえるためかしら？



新鮮な品物を揃えるために、どんなことをしているのか聞きたいな。

(3) 発見カード

見学後に行う発見カード作りでは、「商品がきれいに並べられている」など、その一つ一つが、様々な願いに応えるための工夫・努力であることに気付かせたい。

新鮮な品物を売る工夫

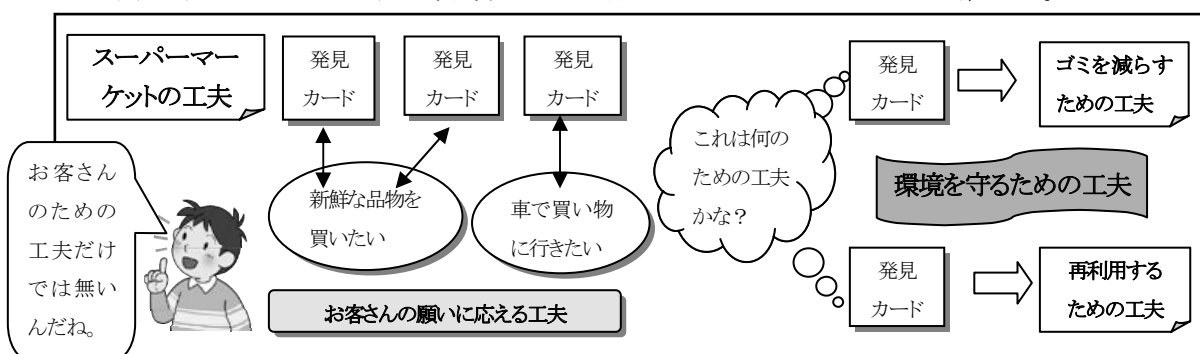
※ 工夫を行っているところの様子が分かる図や写真等

【様子】

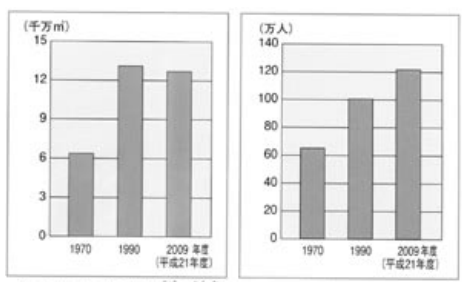
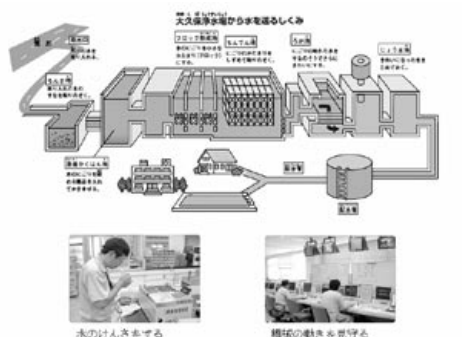
鮮魚担当の人が、大きな冷蔵庫から発泡スチロールを出した。その中には氷水と魚が入っていた。すぐに魚を丁度良い大きさに切って、パックづめをしていた。魚の新鮮さを保つために大きな冷蔵庫は、マイナス10℃になっていて、氷水も使っていた。

2 話し合い活動を通し、何のための工夫なのか、その目的を考えさせる

発見カードを活用して話し合い活動を充実させ、販売者は消費者の願いに応えるだけではなく、環境にも配慮した取組を行っていることを押さえ、自分たちの生活に深く関わっていることを理解させる。



(3) 飲料水

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
3		れいなさんの学級では、わたしたちの生活に欠かせない水のことについて調べました。						
	(1)	次の二つのグラフから読み取れることは何ですか。下の1～4の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きましょう。 1 「さいたま市の水の使用量は、人口が増えるにつれて、増え続けています。」 2 「さいたま市の水の使用量は、1970年から1990年にかけて、人口が増えるにつれて増えました。」 3 「さいたま市の水の使用量は、人口が増えるにつれて、へり続けています。」 4 「さいたま市の水の使用量と人口は、1970年から1990年にかけて、どちらも2倍ほど増えました。」	2	1		65.9	0.5	60
			 さいたま市の水の使用量の変化 (さいたま市水道局調べ) さいたま市の人口の変化 (さいたま市総務局調べ)					
	(2)	わたしたちの使う水がわたしたちのもとへ届くまでの通り道について、下の1～4の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きましょう。 1 山にふった雨 → 川や水路 → 浄水場 → ダム → 学校やわたしたちの家 2 山にふった雨 → ダム → 浄水場 → 川や水路 → 学校やわたしたちの家 3 山にふった雨 → ダム → 川や水路 → 浄水場 → 学校やわたしたちの家 4 山にふった雨 → 浄水場 → ダム → 川や水路 → 学校やわたしたちの家	3	2		81.5	0.4	70
								
	(3)	次の図や写真から分かる浄水場のはたらきについて、下の1～4の中からまちがっているものを一つ選び、その番号を書きましょう。 1 大久保浄水場では、取り入れた水を、たくさんの作業を通して安全できれいな水にしています。 2 大久保浄水場では、安全できれいな水が確認するために、人の目でもけんさをしています。 3 大久保浄水場では、取り入れた水を安全できれいな水にするために、機械がきちんと動いているか人の目で見守っています。 4 大久保浄水場では、取り入れた水を機械が安全できれいな水にするため、働く人は必要ありません。	3	2		87.1	0.5	75
			 水のけんさをする 機械の動きを見守る					

(単位:%)

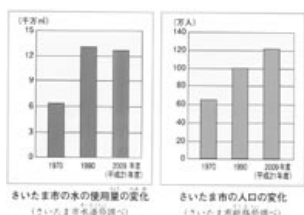
飲料水

問題 大問 3 (1) 前頁参照

分析 (1)は二つのグラフを相互に比較しながら読み取り、正答を導き出す問題である。正答率は65.9%であった。図から水の流れの順序を問う(2)、図と写真から誤りを導く(3)の正答率がそれぞれ81.5%、87.1%という数値を示しているのに対し、大きな開きがある。このことから、資料を比較・関連付ける力が身に付いていないことがうかがえる。資料を的確に読み取る力、それを活用する力、さらに思考・判断・表現する力を児童に身に付けさせる必要がある。

指導のポイント

1 それぞれの資料の内容を正確に読み取らせる



本資料は棒グラフである。そこで、①表題 ②縦軸・横軸 ③棒グラフで表されている量の変化の3点についてしっかりと読み取る力を身に付けさせる必要がある。グラフを読み取らせるときには、必ず表題・縦軸・横軸が表す内容を発表させる。さらに、グラフが表している量の変化を把握するための時間を十分に確保し、正確にとらえられているか確認する。その際、本市採択教科書の東京書籍『新しい社会』4年生版の学び方コーナー「ばうグラフを読みとる」を参考にするとよい。また、ワークシートやノートを活用して、グラフを視写させたり、実際に児童にグラフを作成させたりすることも有効である。

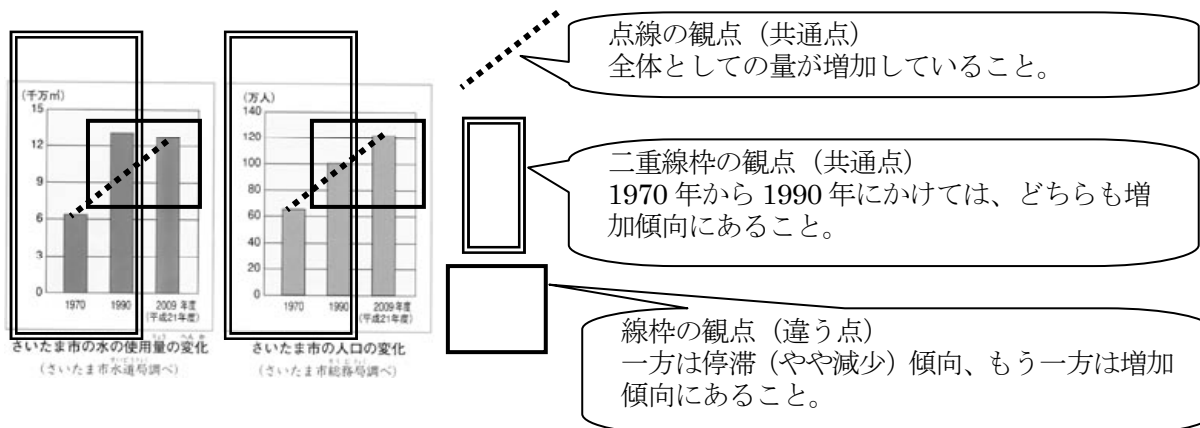
2 資料から読み取った内容を、言語で表現する能力を高めさせる

上述3点をもとにグラフ資料から読み取ったことを正確に表現させるため、「○○(資料名)では、△1～△2(横軸)にかけて××(縦軸)が□□になっています。」といった話型の指導を行う。また、「だから」や「しかし」といった接続語を用いたり、「結論 → なぜなら → 理由」といった表現を意識させたりすることも大切である。＜例＞「さいたま市の水の使用量の変化のグラフでは、1970年から1990年にかけて、水の使用量がおおよそ2倍になっていることが分かります。しかし、1990年から2009年にかけては、ほとんど水の使用量は変わりません。」

このような言語表現の力を育成するため、発表活動のみではなく、ノートづくりや新聞づくりの際に、グラフ資料を引用し、そこに自分で読み取ったことを文章表現させることも大切である。

3 補助線や枠を書き込ませ、比較して考える能力を身に付けさせる

本資料では、どちらも横軸が「年」であることに着目させる必要がある。上記2の活動を通して、どちらも「経年変化による縦軸の増減」について表されていることを促えさせる。そこで、比較の観点を明確にするため、補助線や枠を書き込ませ、変化を読み取る指導を行う。



(4) 事故の防止

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
4		ひとみさんは、社会の授業で「事件や事故をふせぐ」という学習をしました。						
	(1)	ひとみさんは、交通事故が起きたときの連らくのしくみを調べました。次の1～4の中から<u>まちがっているもの</u>を一つ選び、その番号を書きましょう。 1 交通事故が起きると、事故を知らせる110番の電話は、地いきの警察しょにつながります。 2 通信指令室は、地いきの警察しょに、事故発生の連らくをします。 3 通信指令室は、交通管せいセンターに、事故の様子を知らせます。 4 消ぼうしょからの連らくを受け、救急車は現場にむかいます。	1	3		70.2	0.7	65
	(2)	ひとみさんは、安全なくらしを守ることにについて調べました。次の1～4の中から<u>まちがっているもの</u>を一つ選び、その記号を書きましょう。 1 警察しょの人たちは、事件や事故が起こったときに出勤するので、まちのパトロールや、祭りのけいびは、地いきの人たちだけにまかせています。 2 交通事故や事件が起こらないようにするために、きけんな場所を知らせる「地いき安全マップ」を作ったり、配ったりしている地いきや学校があります。 3 さいたま市では、消ぼうしょや警察しょだけでなく、たくさんの人々が安全なまちづくりのために協力しています。「子どもひなん所110番の家」もその一つです。 4 交通安全協会の人たちは、交通事故をふせぐために、交通安全教室で自転車の正しい乗り方を教えたり、自動車を運転するドライバーに交通安全のよびかけをしたりしています。	1	2		93.6	0.6	85
	(3)	ひとみさんたちは、「安全なまちづくり」というテーマで話し合い、次のようにまとめました。下の四人の中から「話し合いのまとめ」とは<u>関係のない意見を話している人</u>を一人選び、名前を書きましょう。 話し合いのまとめ 安全なまちづくりのためには、消ぼうしょや警察しょ、地いきの人たちの協力だけでなく、わたしたち一人ひとりがきまりを守って生活することが大切です。 たつやさん 「ぼくは、交通事故にあわずに安全に登校できるように、決まった通学路を歩くよ。」 れいなさん 「わたしは、あやしい人にあったときに、すぐにまわりに知らせることができるように、登下校時はホイッスルをつけているわ。」 こうたさん 「自転車に乗るときは、道路の左側を走るよ。ジグザグに走ったり、スピードを出しすぎたりもしないよ。」 ひとみさん 「お年よりや体の不自由な人たちの安全のために、駅の階だんにはエレベーターやエスカレーターをつけてほしいわ。」	ひとみさん	れいなさん		86.8	0.5	75

(単位:%)

事故の防止

問題 大問 4 (1) 前頁参照

分析 (1)は、事故が起きた際に関係諸機関が相互に連携し、緊急に対処する体制をとっていることを理解しているか問う問題である。正答率は70.2%であった。それぞれの機関が、どのような役割を担っているか理解した上で考えないと、選択肢の記述に惑わされ、誤答につながる。事故が起きたときの現場の状況や、必要な協力体制の流れを、児童が思考、判断した上で、正しく理解できる指導が必要である。

指導のポイント

1 災害や事故の状況を具体化して協力体制を考えさせる

(1)既習事項の想起と役割演技

社会科副読本『わたしたちのさいたま市』の表紙裏の地図「さいたま市にあるいろいろなしせつ」を児童に提示し、交通量の多い道路や、学校の近くの警察署、消防署、病院、市内の交番の場所を、既習事項を想起させながら確認する。その上で、どのように互いに連絡し、協力しているかなどについて考えさせる。

110番に電話すると、通信指令室から一斉に連絡が行く仕組みは、火災時の指令センターの連絡と似ている。しかし、交通事故と火災では対処する内容が異なるため、火災時の連絡の仕組みと比較して共通点や相違点に気付かせる。また、通報者や通信指令室、交通管制センター、警察署などの役割を分担して連絡することを通し、具体的な災害発生時の連絡の仕組みをつかませる。

(2) 写真資料を活用した、具体的な予想と検証の話し合い活動

副読本p.108の交通事故現場の写真の児童に見せ、「すばやく事故処理をする」ためには、「何を」「どのように」すればよいのかを予想させる。その予想をもとに話し合い活動を行うことで、事故が起きた時の連絡のしくみを児童が具体的に思考した上で、理解させることができる。

交通事故現場の様子の写真から、何が必要かを考える



道路にガラスが散らばっている。早く片付けないと危ない。

大勢の人が見に来て、歩道がふさがっているね。

すばやく事故現場を処理するためには、どうしたらよいかを考える



けが人がいたら、急いで病院に運ばなきゃいけない。

事故が起きたことを、他のドライバーにも知らせないと次の事故が起きるかもね。

クラス全体で話し合い、連絡のしくみを考える



2 思考したことを、図や文章に表現させる

副読本p.110の「市内で交通事故が起きたときの連らくのしくみ」の図の矢印に、その連絡が行く「理由」を書きこませることで、「事故や事件をふせぐ」の学習を、根拠とともに体系的に理解させる。



埼玉県警察本部
通信指令室

事故情報を一斉にすばやく伝えるため。



交通安全センター

運転手に情報をすばやく伝えるため。



電光けいし板
交通情報
事故発生

(5) 地域の人々の生活

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
5		たつやさんは、昔の道具について、家の人にインタビューしたことを絵カードにまとめました。このことについて、あとの問いに答えましょう。						
	(1)	これは、何という名前の道具ですか。 次の1～4の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きましょう。 1 ランプ 2 火ばち 3 七輪 4 たらい	2	3		82.8	0.5	75
		たつやさんの絵カード  道具の名前[使われていた時期 今から50年前 使い方 中に炭すみを入れて、部屋をあたためることなどに使っていた。						
5	(2)	たつやさんの絵カードの道具は、今はどのような道具に変わっていますか。次の1～4の中から正しいものを一つ選び、その番号を書きましょう。 1 電気スタンド 2 そうじ機 3 石油ファンヒーター 4 全自動せんたく機	3	1		92.1	0.6	85
		   						

(単位：%)

地域の人々の生活

問題 大問5 (1) (2) 前頁参照

分析 (1)は、正答率は 82.8%であった。主な誤答として、同じく炭を利用する道具の「七輪」が多かったが、昔の道具についての名称と機能についてはおおむね理解できていることがうかがえる。

(2)は、正答率は 92.1%であった。火ばちが暖房に用いられていたことがカードに書いてあり、また選択肢の今の道具については児童もよく知っているため、正答率が高かったと考えられる。

ともに知識・理解に関する問題であり、正答率は 80%以上と高い。知識・理解が名称の暗記や道具の変遷を知ることのみにならないよう、実生活に結び付けながら具体的に学習を進め、道具や生活の変化と人々の工夫や努力と関連付けて考えさせ、地域社会に対する誇りと愛情につなげる必要がある。

指導のポイント

1 調べ学習や体験活動と地域の生活の変化を関連付けて考えさせる

学習で取り上げる道具については、博物館や地域の郷土資料館で実物に触れるなど、できるだけ具体的に調べられるようにすることが望ましい。そのことにより、地域の人々の生活がどう変化してきたか、どのような思いや願いで昔の道具が使われてきたかを、より身近に感じることができるようになる。

【活動例】七輪を使った体験活動

昔の道具の使われ方を予想する

- ・地域のゲストティーチャー（以下 GT）を招き、子どもの頃の道具を紹介していただき、何に使われていたか、どう使われていたかを予想する。

昔の道具の使われ方などを予想し、それを確かめるという学習活動を行い、必要感をもって GT とかかわり合いながら、昔の人々の知恵や工夫、道具の移り変わりに触れることができるようにする。

GT の話や体験活動をより必要感のあるものにする

- ・昔の道具の使われ方の予想が正しいかについて、活動中、または活動後に GT から話を伺う。
- ・七輪の場合、火起こしをしてみて困った点について GT に質問し、示範、指導のもと、着火を行う。

GT に子どもの頃の生活についてもお話していただきながら、昔の道具について、いつ頃使われていたか、どのように使われたかなど具体的にとらえさせる。

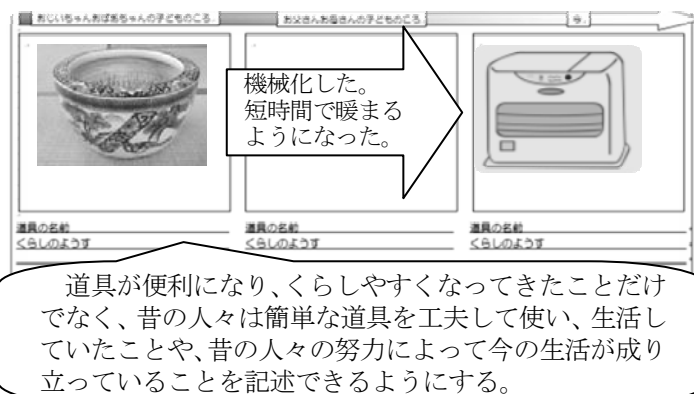
昔の道具のよさや人々の願い、知恵や工夫と体験を関連付ける

- ・昔の道具を使った感想を話し合い、GT の話を聞くことで、昔の人々の工夫や生活の変化を身近に感じられるようにする。
- ・興味をもった昔の道具の使い方や、当時の生活の様子や変化について家族や地域の方にインタビューし、絵カードなどにまとめる。

道具の変化だけを調べるのではなく、生活の変化や当時の人々の思いや願いとのつながりについて、家族や地域の方に話を聞いたり、図書資料を参考にしたりして調べていく。

2 板書や絵年表、ワークシートで暮らしの変化と人々の思いをつなげさせる

絵年表にまとめる際、昔の道具の移り変わりについて調べたことと、当時の生活の様子などについて家族や地域の方にインタビューした内容をセットにしてまとめる。そのことにより、道具や生活の変化、人々の思いや願いなどをより身近に感じさせ、現在の自分たちの生活は、祖先の努力の上に成り立っていることに気付かせる。



(6) 地域の人々の生活

大問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率																																
	こうたさんたちは、見沼代用水や井沢弥惣兵衛の仕事について調べました。あとの問いに答えましょう。 <table><tr><th>年</th><th>年れい</th><th>できごと</th></tr><tr><td>1663年</td><td>0歳</td><td>●紀州（今の和歌山県）に生まれる。</td></tr><tr><td>1690年</td><td>27歳</td><td>●紀州で役人になる。 このころ、紀州で用水の工事をいくつか行う。</td></tr><tr><td>1723年</td><td>60歳</td><td>●幕府の役人になる。</td></tr><tr><td>1725年</td><td>62歳</td><td>●見沼ため井より下流の田や村々のようすを調べる。</td></tr><tr><td>1726年</td><td>63歳</td><td>●見沼ため井の深さを調べる。</td></tr><tr><td>1727年</td><td>64歳</td><td>●見沼代用水の工事を始める。</td></tr><tr><td>1728年</td><td>65歳</td><td>●見沼代用水の工事を完成させる。</td></tr><tr><td>1729年</td><td>66歳</td><td>●鴻沼の開発を始める。</td></tr><tr><td>1731年</td><td>68歳</td><td>●見沼通船堀をつくる。</td></tr><tr><td>1738年</td><td>75歳</td><td>●亡くなる。</td></tr></table>	年	年れい	できごと	1663年	0歳	●紀州（今の和歌山県）に生まれる。	1690年	27歳	●紀州で役人になる。 このころ、紀州で用水の工事をいくつか行う。	1723年	60歳	●幕府の役人になる。	1725年	62歳	●見沼ため井より下流の田や村々のようすを調べる。	1726年	63歳	●見沼ため井の深さを調べる。	1727年	64歳	●見沼代用水の工事を始める。	1728年	65歳	●見沼代用水の工事を完成させる。	1729年	66歳	●鴻沼の開発を始める。	1731年	68歳	●見沼通船堀をつくる。	1738年	75歳	●亡くなる。					
年	年れい	できごと																																					
1663年	0歳	●紀州（今の和歌山県）に生まれる。																																					
1690年	27歳	●紀州で役人になる。 このころ、紀州で用水の工事をいくつか行う。																																					
1723年	60歳	●幕府の役人になる。																																					
1725年	62歳	●見沼ため井より下流の田や村々のようすを調べる。																																					
1726年	63歳	●見沼ため井の深さを調べる。																																					
1727年	64歳	●見沼代用水の工事を始める。																																					
1728年	65歳	●見沼代用水の工事を完成させる。																																					
1729年	66歳	●鴻沼の開発を始める。																																					
1731年	68歳	●見沼通船堀をつくる。																																					
1738年	75歳	●亡くなる。																																					
6	問い こうたさんたちは、「見沼代用水の流れ」と「井沢弥惣兵衛の年表」の資料を見て話し合っています。次の四人の中から<u>まちがっている人</u>を一人選び、名前を書きましょう。 こうたさん 「見沼代用水の東べりと西べりをつないだ見沼通船堀は、1731 年につくられたんだね。」 ひとみさん 「井沢弥惣兵衛は、見沼代用水だけでなく、そのほかにも開発をしているよ。」 れいなさん 「見沼代用水は、さいたま市から近い荒川から水を取り入れたから、1727 年から 1728 年までの短い期間で工事ができたのね。」 たつやさん 「見沼代用水の工事を始める前に、見沼ため井より下流の田や村々の様子を調べているね。」	れいなさん	ひとみさん	55.8	1.0	55																																	

(単位：%)

地域の人々の生活

問題 大問6 前頁参照

分析 2つの資料をもとに、思考力・判断力・表現力及び資料活用の技能を問う問題である。正答率は55.8%と低く、どの資料から問いに対する根拠が得られるかを考える力や、2つ以上の資料から必要な情報を読み取る力が十分ではないことがうかがえる。また、利根大堰から取水する見沼代用水などの開発における認識も不足している。問いに対して適切な資料を選択し、必要な情報や根拠を読み取る指導の充実を図るとともに、正しい歴史的・地理的認識を定着させていきたい。

指導のポイント

1 資料から必要な情報を読み取らせる

資料活用の技能の育成は、継続的・段階的に指導する必要がある。歴史的事象に慣れていない中学年の段階では、年表に関しては、どのくらい前のことを具体的にイメージさせたり、出来事の前後で何がどう変わったかをとらえさせたりと、丁寧に扱う必要がある。

【年表の読み取り方】

- 表題を確かめる
- 下に行くほど新しいことをおさえる
- いつ・どのようなことがあったのか分かることをおさえる

一斉に声に出してくり返し読むなど、全体に浸透させる。

年表に書きこみ、しっかりおさえる。

- 一斉に声に出してくり返し読むなど、全体に浸透させる。

年表に書きこみ、しっかりおさえる。

・年表を正確に読み取る

資料から分かることや疑問に思うことを設定時間内にノートに書き出したり、発問や読み取りクイズをしたりすることにより、資料の輪郭や全体的な傾向を明確にする。また、歴史的事象が出るたびに年表で確認する。

疑「通船堀って何だろう」

- ・根拠を他の資料から探し出す

年表に出てきた内容を詳しく知ることのできる資料を探したり、問いに対する根拠が分かる資料を選んだり、複数の資料を関連させて読み取ることを意識させ、必要な情報を収集できるようにする。

何で荒川から引かなかったのだろう。

副読本の本文を地図や年表で補完したり、教科書の資料も活用したりすることも必要である。また、情報機器を活用し、探し出した資料を効果的に提示したりすることも大切である。

見沼ため井 見沼通船堀 とは何だろう。
地図に印をつけてみましょう。

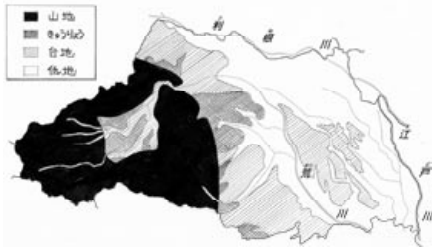
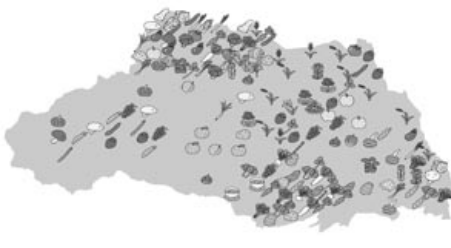
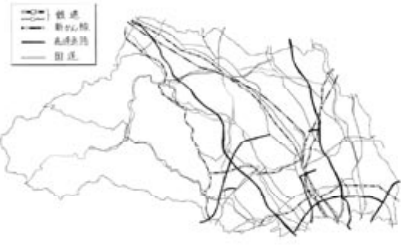
昔	年	年れい	できごと
	663年	0歳	●紀州（今の和歌山県）に生まれる。
	1690年	27歳	●紀州で役人になる。 このころ、紀州で用水の工事をいくつか行う。
	1723年	60歳	●幕府の役人になる。
	1725年	62歳	●見沼ため井より下流の田や村々のようすを調べる。
	1726年	63歳	●見沼ため井の深さを調べる。
	1727年	64歳	●見沼代用水の工事を始める。
	1728年	65歳	●見沼代用水の工事を完成させる。
	1729年	66歳	●鴻沼の開発を始める。
	731年	68歳	●見沼通船堀をつくる。
	新	738年	75歳



2 具体物を用いて歴史的認識を深めさせる

テープ図を用いて、一年を1cmとして、児童の年齢では10cm、お父さん、お母さんが40cm、祖父母が70cmなどと長さを掲示する。見沼の開発が行われた年代は3mもの長さがある昔であったこと、工事にかかった期間の長さがたった1cmであることなどをつかませる。このことを通して、300年近くの時を経ても、身近に代用水が残っていることの価値について実感をもってとらえさせ、歴史的認識を深めるとともに、地域社会に対する誇りと愛情を育てる。

(7) 県の様子

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
		地図①～④を見て、あとの問いに答えましょう。 地図①「埼玉県の地形の様子」 地図③「埼玉県の地いき別の農産物」   地図②「埼玉県の交通の様子」 地図④「埼玉県の人口の多い都市上位 10 市」  						
7	(1)	こうたさんはどの地図を見ているのでしょうか。上の地図①～④の中から、当てはまる地図を一つ選び、その番号を書きましょう。 こうたさん 「埼玉県の東の方は、台地や低地が広がっているね。西の方は山地になっている、県全体の広さのおよそ 3 分の 1 ほどだね。」	1	4		95.9	1.2	75
	(2)	地図①～④から分かることを説明している次の 1～4 の文の中から、正しいものを一つ選び、その番号を書きましょう。 1 地図①と地図④を見ると、人口の多い都市は、低地や山地に集中していることが分かります。 2 地図①と地図②を見ると、埼玉県の北の方は山地が多く、この地いきには高速道路が何本も通っていることが分かります。 3 地図①と地図③を見ると、埼玉県は野菜や果物の生産がさかんですが、山地には農産物がないことが分かります。 4 地図②と地図④を見ると、人口の多い都市は、道路や鉄道が集中していることが分かります。	4	2		67.7	1.6	65

(単位：%)

県の様子

問題 大問7 (1) (2) 前頁参照

分析 (1) は、4つの資料の中からこうたさんの話の内容に合った資料を選択する問題である。正答率は95.9%であった。こうたさんの話には「地形」という言葉はないものの、凡例を見れば「台地、低地、山地」をすぐに見付けることができ、正答率が高かったと考えられる。

県の様子の学習では、県全体の山地や平地などの位置や広がりの様子をとらえることができるようにする。第5学年「我が国の国土の様子」の学習へのつながりを考え、複数の資料を関連付けて読み取ることができるよう指導することが大切である。

(2) は、二つの地図を組み合わせることで説明された文の中から正しいものを選ぶ問題である。正答率は67.7%であった。文中にある方位や地形と、それぞれの地図から読み取った特色を合わせて考える必要があるため、資料の読み取りと位置関係のとらえが十分でないと誤答になったと考えられる。

指導のポイント

1 地図を活用し、具体的な活動を取り入れて広い視野でとらえさせる

・位置の表し方

「さいたま市は上尾市、川越市…と隣り合っている。」

「埼玉県の川は、北西から南東へ流れているものが多い。」

設問では「東の方は」と四方位になっているが、4学年以上では八方位を使って表現できるようにする。「33 ページ参照」

・県全体の地形や主な産業の概要のとらえ方

立体地図を作製し、地形の様子を視覚だけでなく触覚も使ってとらえさせる。

白地図に書き表し、作業を通してとらえさせる。

2 複数の資料を活用して読み取る力を高めさせる

「県の様子」の学習では、地形や交通、産業それぞれの特色が地図で表されている。これらの地図を授業でも組み合わせることで取り上げ、読み取りを深めたい。

・トレーシングペーパーに「地形の様子」を写し取り、他の地図と重ね合わせて特色をとらえさせる。

＜板書例 第4学年「わたしたちの埼玉県」第6時「農業や工業がさかんな埼玉県」＞



埼玉県では、どこでどのような農産物がつくられているのだろう

地図
地域別
農産物

地図
地形の様子

主な野菜や花の産出額
の全国順位

(分かったこと)

(まとめ)

- ・埼玉県ではこまつな、ねぎ…をつくっている ・埼玉県では…
- ・北の方や南東の方で多くつくられている
- ・全国各地に出荷されている
- ・川に沿った低地や台地で農業がさかん

副読本 p.168 本文では、「低地や台地の広がる地形を生かし」とあるが、農産物の分布図だけではとらえることはできない。

そこで、既習の地形図を農産物の分布図と同じ大きさに提示すると、地形と結び付けて読み取ることができる。

(8) 県の様子 (地図帳の活用)

大問	小問	問 題	正 答	主な誤答例	自校の正答率	市の正答率	市の無解答率	設定通過率
8		ひとみさんたちは、地図帳の見方について学習しました。あとの問いに答えましょう。						
	(1)	地図帳の 37E2にある市の名前は何ですか。次の 1～4の中から、あてはまる市を一つ選び、その番号を書きましょう。 1 さいたま市 2 くまがやし 熊谷市 3 かす かべし 春日部市 4 かわごえし 川越市	2	1		75.3	2.3	70
	(2)	地図帳の1ページを見て答えましょう。 埼玉県について説明している次の 1～4の文の中から、<u>まちがっているもの</u>を一つ選び、その番号を書きましょう。 1 埼玉県の南には東京都があり、南西には千葉県があります。 2 埼玉県の西には、ぎ ふ 岐阜県やふく い 福井県があります。 3 埼玉県は海にせつ 接していません。 4 埼玉県は、いばら き 茨城県、千葉県、東京都、やまなし 山梨県、長野県、ぐん ま 群馬県、とち ぎ 栃木県の7つの都県に囲まれています。	1	2		61.9	1.4	60

(単位：%)

県の様子(地図帳の活用)

問題 大問8 (1) (2) 前頁参照

分析 (1) は、地図帳にある列と行の記号をもとに、地図帳を活用して地名を調べ、当てはまる市を選択する問題である。正答率は 75.3% であった。無回答率は 2 番目に高かった。問題文にある「地図帳の 37エ2」の意味が理解できていない児童もいると考えられる。

(2) は、地図帳を活用し、埼玉県 of 地理的な位置やまわりの様子などを読み取り、間違っているものを選択する問題である。正答率は 61.9% であった。誤答として 2 の割合が高いのは、岐阜県と福井県は埼玉県に接しておらず、とらえ方が難しかったことや、正答の文中の「南西」といった八方位の理解が十分でないためということも考えられる。

地図帳は、社会的事象を見たり考えたりする能力を育てるために必要な教科書である。社会科の年間指導計画に地図帳の使い方の時間を位置付け、地名が出てきたら地図帳で確認する習慣を身に付けるようにしたい。

指導のポイント

1 地図帳を積極的に活用させる

さいたま市が採択している地図帳の p.5~12 には、約束事、使い方、まとめ方が書かれている。児童とともにまずこのページを開き、使い方を確認する。帝国書院 HP で、楽しく使い方を指導できる学習指導案などが紹介されているので、活用するとよい。

地図帳には、国内の貴重な動植物や世界の音楽、物語の舞台なども掲載されており、社会科だけでなく、他教科でも活用できる。どの教科の学習でも、地名が出たら全員で地図帳を開き、位置を確認するようにすると、児童にとって身近になる。

〈地図帳で指導する約束事〉

- ・方位（第4学年以上は八方位）
- ・距離と縮尺（道路や鉄道を指でたどり、距離感などをつかませる）
- ・土地の高さ、土地利用（色分けされていることに着目させる）
- ・地図記号（写真等他の資料も合わせて特色をとらえさせる）
- ・索引（「◎くまがや 熊谷[埼玉] 36ウ5」→記号、数字等が意味していることをおさえる）



〈第5, 6 学年での地図帳の活用〉

- ・事例地は、必ず地図で位置確認をする。取り上げた事例地は印を付ける。地形などから、「なぜこの農産物はこの地で盛んになったのか」等を考えさせるとよい。
- ・「貿易や運輸」、「我が国とつながりが深い国」等、外国を取り上げる場合には、地球儀も合わせて扱い、平面では気付きにくい距離や位置関係をとらえさせるようにする。
- ・巻末近くには、各種統計資料、年表等もある。教科書の資料と合わせ、活用したい。

2 47都道府県を総合的に捉えさせる

「県の様子」の学習では、「47都道府県の名称と位置」が加わった。指導に当たっては、埼玉県の位置を正しく捉え、隣接する都県、他県へ広げていくようにする。（地図帳 p.2 参照）

また、単に県名を覚えるのではなく、日本の中の位置や、埼玉県からの方位、県の形など、自分とのかかわりや特色と合わせ、総合的にとらえさせる。

- ・授業の前後で繰り返し取り上げる。（歌、地図パズル、地図クイズ、地方別小テスト）
- ・白地図を着色する、地図に書き込みをさせるなど、作業を通してとらえさせる。
- ・名所や特産物調べをして、大きな地図にまとめる。（東京書籍4学年教科書下巻 p.114~115 参照）

地図は授業後も掲示し、児童が見つけたものを随時書き込むようにすると、意欲が持続する。